

(公財)京都市音楽芸術文化振興財団	平成27年度経営計画 兼 経営努力結果
-------------------	------------------------

**基本事項**

所管局課	文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課	本市出えん金	55,000 千円
基本財産/資本金	103,000 千円	本市出えん率	53.4 %

**「外郭団体のあり方の抜本的な見直し」に係る「今後の方向性」**

方向性	存続	目標年度	—
-----	----	------	---

**「今後の方向性」に向けた基本的方針**

業務面	<p>『文化芸術プロフェッショナル集団としての真価』をスローガンとし、以下を重点方針とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「世界的な文化芸術都市・京都」の音楽芸術・舞台芸術を牽引</li> <li>② 地域の文化力の更なる向上に貢献</li> <li>③ 文化芸術ネットワークのハブ機能を発揮して文化芸術活性化インフラを形成</li> </ul>
財務面	<p>管理運営施設の経営を総合的かつ安定的に展開し、経営基盤の強化と市場競争力を発揮するため以下のことに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 中期的な収支の見通しに基づく財務戦略の展開</li> <li>② 財務運営の継続的な見直し</li> <li>③ ファンドレイジング（資金調達）の取組促進</li> </ul>
組織面	<p>管理運営施設の経営を総合的かつ安定的に展開し、経営基盤の強化と市場競争力を発揮するため以下のことに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 経営自立化の推進</li> <li>② 組織人員体制の整備</li> <li>③ 人事・給与制度の更なる改革</li> <li>④ 危機管理体制の再構築</li> </ul>
その他	特になし

**当年度の取組目標に対する意見**

所管局	<p>業務面においては、京都コンサートホールや地域文化会館5館の魅力ある事業展開や、貸館としての利用促進を引き続き行っていただきたい。それに加えて、平成28年1月に開館するロームシアター京都（京都会館）は、事業についてはもちろんのこと、貸館制度等に関する広報にも力を注ぎ、増益、増収の見込める安定的な運営を目指していただきたい。</p> <p>財務面については、ロームシアター京都（京都会館）の開館準備等のための先行投資が必要となるが、財源獲得の取組に尽力し、今後の大規模な事業に備えていただきたい。</p>
-----	--

**当年度の取組に対する総括(※)**

団体(※)	<p>京都コンサートホールや地域文化会館5館で、魅力ある多彩な事業を展開するとともに、貸館のさらなる利用促進を図るため、積極的な営業活動を行った。</p> <p>また、平成28年1月にロームシアター京都がリニューアルオープンし、新たな文化創造の拠点として劇場のオープンにふさわしい祝祭感あふれる事業をスタートさせた。今後、引き続き、文化芸術の魅力を存分に感じていただける事業を展開していくとともに、貸館の利用促進を図るなど、安定的な劇場経営手法を確立していく。</p>
所管局(※)	<p>リニューアルオープンしたロームシアター京都をはじめ、それぞれの施設の特性に応じた事業を展開していくために、各施設が安定して運営できる組織管理、経営基盤の更なる強化に努めていただきたい。</p>
外郭団体総合調整会議(※)	<p>ロームシアター京都オープンや各種周年事業が一段落する平成29年度以降に向けて、京都市からの派遣職員の削減などの取組について検討する必要がある。</p>

## (1)業務に関する取組

## 目標「各施設の利用促進」

中期経営計画 における取組	「世界的な文化芸術都市・京都」の音楽芸術・舞台芸術を牽引し、ホールの魅力の向上と地域の文化力の更なる向上に貢献するため、管理運営施設の利用促進を図る。平成28年1月にはロームシアター京都がオープンすることから、利用料金収入の増加を見込む。
当年度目標	京都コンサートホール及び地域文化会館（5館）については、各種助成金制度の広報・宣伝を引き続き強化し、平日の利用促進を図るほか、ホームページを利用した施設の空き情報更新頻度を高め、利用率の向上に努める。 また、ロームシアター京都が平成28年1月にオープンするため、利用料金収入の増加を見込む。
当年度結果 (※)	京都コンサートホール及び地域文化会館（5館）については、各種助成金制度の広報・宣伝を強化し、平日の利用促進を図ったことなどにより、利用率、利用料金とも一定確保することができたが、目標には到達しなかった。また、ロームシアター京都が平成28年1月にオープンしたことにより、利用料金収入の総額は増加した。

指標	施設利用料金収入						
	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度
中期経営計画	—		487,015		695,815		695,815
実績	目標	見込	実績(※)	目標	見込	実績(※)	—
	445,884	—	435,324	487,015	—	483,623	

## (2)財務に関する取組

主要財務数値							(単位:千円)
	平成26年度			平成27年度			備考欄
	予算	見込	実績(※)	予算	見込	実績(※)	
経常収益	2,041,303	—	2,039,103	2,461,614	—	2,439,101	
経常費用	2,087,483	—	2,043,489	2,623,544	—	2,552,630	
当期経常増減額	△ 46,180	—	△ 4,386	△ 161,930	—	△ 113,528	
当期正味財産増減額	△ 46,180	—	△ 4,706	△ 161,930	—	△ 113,848	
資産合計	—	—	1,327,977	—	—	1,399,454	
負債合計	—	—	519,005	—	—	704,330	
正味財産	767,498	—	808,972	605,568	—	695,124	
うち累積損益額	767,498	—	705,972	502,568	—	592,124	

## 目標「サポーター・パートナー制度」

中期経営計画における取組	<p>中期的な収支の見通しに基づき、財務運営の継続的な見直しを行うほか、財団の活動のために必要となる資金の調達を強化するため、新たな会員制度（京都コンサートホール及びロームシアター京都のサポーター・パートナー制度）を開始し、ファンドレイジング（資金調達）の取組を進める。</p>
当年度目標	<p>まずは制度の趣旨について、多くの市民の皆様、また社会貢献活動に御関心のある企業の皆様に、御理解・御賛同をいただく。</p> <p>平成27年度はロームシアター京都がオープンする年度に当たるため、より多くの資金を調達することを目的とし、平成26年度から本制度会員を募集していることから、目標設定を10,000千円としている。</p> <p>法人：サポーター 37口 3,700千円          //：スペシャルサポーター 35口 3,500千円          個人：パートナー 70口 1,400千円          //：スペシャルパートナー 70口 1,400千円</p>
当年度結果(※)	<p>目標として設定した10,000千円には1,860千円届かなかった。</p> <p>法人：サポーター 36口 3,600千円          //：スペシャルサポーター 15口 1,500千円          個人：パートナー 70口 1,400千円          //：スペシャルパートナー 82口 1,640千円</p>

指標	サポーター・パートナー会員収入（単年度）の目標値				(単位:千円)	
中期経営計画	平成26年度		平成27年度		平成28年度	平成29年度
		—	—	10,000	—	5,000
実績	目標	見込	実績(※)	目標	見込	実績(※)
	—	—	5,060	10,000	—	8,140

## (3)組織に関する取組

## 目標1「適正な執行体制の維持」

中期経営計画における取組	<p>経営の自立化を推進するとともに、平成28年1月のロームシアター京都のオープンに向け、財団全体の職員の定数管理を行う。</p> <p>また、平成25年度から導入した人事給与制度の更なる改革に向け取組を進めるほか、災害等を想定した危機管理体制について再整備を行う。</p> <p>「はばたけ未来へ！京プラン」に掲げられている、常勤役員への就任については、平成26年度に見直しを実施した。</p>
当年度目標	<p>平成28年1月のロームシアター京都のオープンに向け、ロームシアター京都の職員の定数を確立するとともに、適正な執行体制を維持するため、財団全体の職員の定数管理を行う。</p> <p>また、嘱託職員の一般職員への登用制度の検討を行う。</p>
当年度結果 (※)	<p>平成28年1月のロームシアター京都のオープンに向け、管理、企画、舞台職員をそれぞれ採用した。</p> <p>また、嘱託職員の一般職員への登用については人事制度を新たに構築し、平成28年度から運用する。</p>

指標	財団職員定数 (単位：人)					
	平成26年度		平成27年度		平成28年度	平成29年度
中期経営計画	—		189		189	189
実績	目標	見込	実績(※)	目標	見込	実績(※)
	—	—	168	189	—	170

## 目標2「京都市からの派遣職員の削減の検討」

中期経営計画における取組	<p>京都市からの派遣職員については、財団と市が事業等で密接に関連しており、一定の公共性を確保したうえで、円滑に施策を推進するために必要最低限の人員の派遣を受けているところである。</p> <p>現在、ロームシアター京都（京都会館）に関する事業等により、当面の人員削減は困難だが、中期経営計画を推進する中で、より自主的な経営体制の構築に向け、財団の運営状況や事業の進捗を見極めながら、将来的な組織の在り方や人員体制、人材育成等について検討する。</p>
当年度目標	<p>中長期的な財団の運営を見据えながら、事業の確実な進捗を図りつつ、より効率的な組織の在り方や必要な人員体制、財団独自の人材育成等について、検証を進める。</p>
当年度結果 (※)	<p>ロームシアター京都のリニューアルオープンをはじめ、京都市の文化施策を担う外郭団体として事業を確実に進めている。現在、ロームシアター京都のオープニング事業を実施しているところであるが、中期経営計画を基に、今後の組織体制について引き続き検討する。</p>

指標	本市派遣職員数 (単位：人)					
	平成26年度		平成27年度		平成28年度	平成29年度
中期経営計画	—		98		98	98
実績	目標	見込	実績(※)	目標	見込	実績(※)
	96	—	96	98	—	96